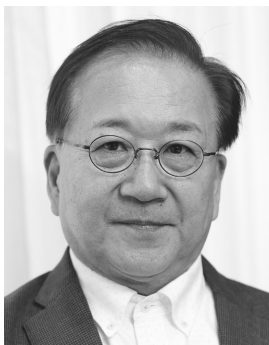


令和6年能登半島地震の衝撃

静岡県立大学客員教授、東海大学客員教授

なが
おとし
やす
長尾年恭

- *能登半島地震とはどんな地震だったのか
- *プレート境界で動いた活断層
- *想定を超える地震が発生した理由
- *前兆をキャッチした電離圏電子密度観測
- *日本海東縁部で懸念される地点
- *太平洋側で想定されるアウトターライズ地震
- *九州北部にもある割れ残り部分
- *房総沖大地震の可能性について
- *南海トラフ地震の前兆を考える
- *活火山・富士山の噴火リスク



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は長尾年恭先生にお越しいただきました。昨年3月にもお越しいただいて地震のお話を伺いましたけれども、今年は皆様もご承知のとおり元旦から能登半島で大きな地震がありまして、それから関東近辺では最近千葉の群発地震、それから昨晩、福島でもまた大きな震度5の地震がありました。地震のことについて、皆様個々の問題でもありますし、社会の大きな問題でもありますので、たいへんご関心が高いと思います。先生は地震予知の問題、それから防災の問題にも踏み込んでいろいろ考えていらっしやいますので、皆様質問はたくさんあると思うんですけれども、まず初めに先生のお話をじっくり伺ってからいろいろ質問していただければと思

います。

では先生、よろしくお願ひいたします。

能登半島地震とはどんな地震だったのか

長尾 ただいまご紹介にあずかりました長尾です。（拍手）定期的にこちらの経済倶楽部様にはお呼びいただきまして、ありがとうございます。

いつもは地震予知の話が中心ですが、今日は地震予知の話というよりは、元日に能登半島地震が起きて、それから後、最近では房総半島沖千葉県沖でちよつときな臭い活動が起きているということもありまして、今起きていること、それから今後起き得ることを中心にお話ししたいと思います。